

地震と爪あと

～復旧・復興のために選挙の延期を～

3月11日、14時46分、日本の観測史上最大のマグニチュード9.0の大地震が発生しました。その日は、2月定例県議会の閉会日、川本さんの「平成23年度一般会計予算に反対討論」が終了し、10分ほど経った採決中の時でした。

私は、県庁脇の都川の橋の上にいました。初めは、地震というより、「何か変だな」と立ち止まっていると、都川の水が左右の岸壁に「バシャ、バシャ」と波を立て始めています。何が起きているのかわからず、思わず立ちすくんでしまいました。警察官の「橋の上は危ないから早く渡って」の声に、急いで橋を渡りました。信号機は大きく揺れ、今にも倒れそうなほど。近くのビルからは大勢の人が、都川の波はさらに大きく左右の岸壁に打ち付けていました。

15時11分、再度大きな地震が襲いました。議会は採決を残し、閉会になりました。帰宅したくても電車は全てStop、自動車での帰宅も不安です。

会派室のTVに写される当方区地方の地震による津波は想像以上で、押し寄せる津波に次々飲み込まれていく家、建物、そして移動中の自動車にただ驚きの声を発することしかできませんでした。さらに、福島原発の事故。日本中が不安に広がりました。

自民党が多数にもの言わせて採決してしまうことへの県民の怒りも感じました。



昨年夏から今年始めに掛けて議会棟は耐震補強をしました。もし、補強されていなかったらと思うと、ゾッとしました。

選挙を1ヵ月後に控えています。選挙を延期し、復旧・復興を考えるべきと思います。いつもは、議会終了後は議会報告の駅頭、ポスティングなどを予定していましたが、川本さんは自粛体制を取り、液状化被害の浦安市・千葉市美浜区、津波被害の旭市・一宮海岸の視察と 原発問題について情報収集を図りました。

【計画停電】

需要逼迫による計画停電の実施と一層の節電のお願いについて 平成23年3月13日
福島第一原発の事故をはじめ、東京電力の発電所及び流通設備など当社設備が大きな影響を受けていることから、電力供給が極めて厳しい状況になっております。(中略) 予見性のないまま大規模な停電に陥らないよう。明日以降は、計画的に停電をお願いさせていただきます。

(東京電力HPより)

5つのグループに分けられ、3時間ずつ強制的な停電が14日から始まりました。しかも、1日に2回停電する地域もあります。川本さんの事務所も2回停電の日があります。そして、何より大変なのは、停電により踏み切りの電力確保の調整がつかないとして外房線・内房線が全面運休してしまいました。JRが運休すると陸の孤島になってしまいます。1月25日の朝、JR外房線が運休したとき、鎌取～蘇我間の車は渋滞、1時間以上かかる状況でした。

いつまで続くのだろう。計画停電の実施も、電車の運行も当日の朝にならないとわからないのは、不安です。



【一宮海岸の様子】



ジャカゴ(蛇籠): 鉄線などで編んだかごの中に石などを詰めたもので、堤防の護岸として堤防の法面(のりめん)や法先(のりさき)に置き、流水により堤防が浸食されることを防ぐ

2011年1月25日の様子



3月18日の様子: 津波の力でジャカゴの中の岩が動き、鉄線のジャカゴが波打っています



元禄大地震: 1703年12月、野島崎を震源とするM8.1と推定の海溝型地震。野島崎は海底が隆起して小島から地続きになったそうです。

今回の津波の高さの跡

津波で打ち上げられた砂も未だ残っています。

太東漁港にある「津波注意」のたて看板と、「元禄地震の再来想定津波高」の標識

一宮川では、津波が川をさかのぼり、浸水した家屋もあるそうです。1月25日に一宮海岸の視察をしました。そのときに訪れた「九十九里浜自然誌博物館」は、被害にあったのでは、お話を聞かせていただいた「一宮の海岸環境を考える会」の方々は大丈夫でしょうか。

目に見えない海の中は、どうなっているのか、見えないだけに心配。



東北の被害に目が行きませんが、千葉県内でも津波による被害、液状化による建物の被害だけでなく田畑の被害が出ています。電車が運休する余震も続いています。電力不足はどうか。今は選挙を延期し、復旧・復興に最大限の力を注ぎ、次への対策を急ぐときだと思います。